

様式 3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数								非常 勤教 員	専任教員 一人あた りの在籍 学生数	備考
	教授	准教 授	講師	助教	計	基準 数	うち 理学 療法 士又 は作 業療 法士 数	助手			
医療福祉 学部 リハビリ テーショ ン学科 理学療法 学専攻	5 人	3 人	4 人	4 人	16 人	9 人	15 人	3 人	39 人	17.4 人	
計	5 人	3 人	4 人	4 人	16 人	9 人	15 人	3 人	39 人	—	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
○	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎・ 専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
基礎	科学的思考の基礎 人間と生活 社会の理解	輝ける者	42	小野部純、黒沢麻美、二科妃里、渡邊洋一、志賀野桂一、他	専任・兼任
		生命を考える	14	中村哲也、加賀谷豊、阿部玄治、本多ふく代、大庭みよ、佐藤大輔	兼任
		人間文化探求	14	加藤由美、加賀谷豊、長井真弓、石川奈津美、石垣亨(非常勤)、石橋千賀(非常勤)	専任・兼任
		生活の中の科学	14	相澤康弘、沈紅、鈴木陽一、高根昭一、長田俊明、八十川淳、野崎淳夫、須藤諭、山本和恵、川村広則、一條佑介、二科妃里、梅岡恒治、富山正幸、家名田敏昭、浅井仁、工藤剛実、高橋るみ	兼任
		地域活動・ボランティア	28	豊田正利、平山和哉、香山明美、作山美智子、野崎瑞樹、徳田律子、山崎真帆、渡邊洋一	専任・兼任
		現代社会を視る	14	馬内里美、田邊文彦、ヴォルグレイブイーライ	兼任
		ボランティア探求	42	渡邊洋一	兼任
		情報処理	14	沼田純希、小林武	専任
		医療情報科学	7	鈴木亮二	兼任
		医療数理基礎	7	西澤哲	兼任
		基礎数学	14	黒後裕彦、阿部玄治、平山和哉、沼田純希	専任・兼任
		基礎物理学	14	西澤哲	兼任
		基礎化学	14	堂浦克美	兼任
		基礎生物学	14	戸田孝史	兼任
		統計解析	14	西澤哲	兼任
		アカデミック・スキル演習	14	鈴木誠、鈴木博人、高橋一揮、阿部玄治	専任
		スポーツ実技	21	犬塚剛、森田清美、稲井勇仁、中島千恵子、金田幸夫	兼任
		心理学	14	北川公路	兼任
		生命倫理	7	浅川芳直	兼任

分野 (基礎・ 専門基礎・ 専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
基礎	科学的思考の基礎 人間と生活 社会の理解	英語Ⅰ	28	大野朝子、大野朝子、大槻くるみ、グッチェフランク、酒井孝之	兼任
		英語Ⅱ	28	増井三千代、ギャリーマームグレン	兼任
		韓国語	14	李恵慶、	兼任
		中国語	14	王效紅、	兼任
		コミュニケーション論	14	邑本俊亮、	兼任
		現代国語表現	14	大泉浩一、	兼任
		海外研修	28	増井三千代、立花顕一郎、文慶喆、王元	兼任
		憲法と法律	14	淡路智典、	兼任
		文化人類学	14	瀬川昌久、	兼任
		日本・東北文化論	14	栗原伸一郎、	兼任
		日本近代史	14	渡邊洋一、	兼任
		健康科学	14	稲井勇仁、古林俊晃	兼任
		教育学Ⅰ	14	三塚明彦、	兼任
		教育学Ⅱ	14	泉山靖人、	兼任
		地球の科学	7	千葉一、	兼任
		哲学	7	菅原宏道、	兼任
		生活と経済	7	貝山道博、	兼任
		ジェンダー論	7	妙木忍、	兼任
		政治学	7	王元、	兼任
専門基礎	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	28	内藤輝、	専任
		解剖学実習	21	内藤輝、小林武、高橋一揮、阿部玄治	専任
		解剖学Ⅱ	28	内藤輝、	専任
		基礎運動学	14	鈴木博人、藤澤宏幸	専任
		身体運動学演習	14	鈴木博人、藤澤宏幸	専任
		運動制御論	14	鈴木誠、村上賢一、鈴木博人	専任
		身体運動学実習	21	鈴木博人、鈴木誠、村上賢一、小野部純、高橋一揮、阿部玄治、長井真弓、平山和哉	専任
		生理学Ⅰ	14	戸田孝史、	兼任
		生理学Ⅱ	14	戸田孝史、	兼任
		生理学実習	21	小野部純、黒後裕彦、村上賢一、阿部玄治、沼田純希、長井真弓	専任
		人間生涯発達学	14	本多ふく代、星孝	専任・兼任
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床医学総論	14	渡邊隆夫、沼崎宗夫	兼任
		内部障害系病学	14	佐藤秀隆、	兼任

分野 (基礎・ 専門基礎・ 専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
専門基礎	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	神経障害系病学Ⅰ	14	津田丈秀、	兼任
		神経障害系病学Ⅱ	7	津田丈秀、	兼任
		運動器障害系病学	14	永元英明、	兼任
		精神障害系病学Ⅰ	14	二木文明、	兼任
		発達障害系病学	7	大浦敏博、	兼任
		老年期病学	7	佐藤秀隆、	兼任
		栄養学概論	7	小野部純、鈴木誠、平山和哉、 釧明佳代子	専任
		救命救急学演習	14	渡邊隆夫、	兼任
		臨床心理学	14	北川公路、	兼任
		リハビリテーション医学	7	津田丈秀、	兼任
		病態薬理学	7	渡邊隆夫、津田丈秀、浅野浩一、 佐藤秀隆、松谷幸子	兼任
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	7	星孝、	専任
		チーム医療福祉論	7	大黒一司、	兼任
		保健医療福祉概論	14	森田慎二郎、	兼任
		専門職連携論	14	大黒一司、大庭みよ、渡邊隆夫、 伊藤清世、樽林雅司、佐藤尚子、 土井勝幸	兼任
		専門職連携セミナー	14	大黒一司、	兼任
		公衆衛生学	7	吉田裕人、	兼任
		医療経済論	7	吉田裕人、	兼任
		リハビリテーション心理学	7	北川公路、	兼任
専門	基礎理学療法学	理学療法学概論	14	藤澤宏幸、	専任
		理学療法学基礎演習Ⅰ	14	村上賢一、三木千栄、高橋一揮、 沼田純希、釧明佳代子、阿部玄治、 長井真弓	専任
		理学療法学基礎演習Ⅱ	14	釧明佳代子、鈴木誠	専任
		理学療法障害論	14	黒後裕彦、	専任
	理学療法管理学	理学療法管理学	14	黒後裕彦、星孝、村上賢一、阿部功、 坪田朋子	専任・兼任
	理学療法評価学	理学療法評価技術演習Ⅰ	28	小林武、専攻全教員(藤澤、内藤を除く)	専任
		理学療法評価技術演習Ⅱ	28	小林武、専攻全教員(藤澤、内藤を除く)	専任
		運動動作分析演習	14	村上賢一、鈴木博人	専任
		臨床動作分析演習	14	村上賢一、阿部玄治	専任

分野 (基礎・ 専門基礎・ 専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
専門	理学療法治療学	運動療法学演習	28	鈴木誠、鈴木博人、釧明佳代子	専任
		運動器理学療法演習Ⅰ	14	星孝、阿部玄治	専任
		運動器理学療法演習Ⅱ	14	小林武、阿部玄治、平山和哉	専任
		運動器理学療法演習Ⅲ	14	小林武、阿部玄治、平山和哉、塚田雅弘	専任・兼任
		小児理学療法演習Ⅰ	14	鈴木誠、長井真弓	専任
		小児理学療法演習Ⅱ	14	長井真弓、鈴木誠、星孝、三浦利彦	専任・兼任
		神経理学療法演習Ⅰ	14	村上賢一、沼田純希	専任
		神経理学療法演習Ⅱ	14	村上賢一、沼田純希、高橋一揮	専任
		神経理学療法演習Ⅲ	14	村上賢一、沼田純希、坂本保夫	専任・兼任
		内部障害理学療法演習Ⅰ	14	高橋一揮、星孝、釧明佳代子	専任
		内部障害理学療法演習Ⅱ	14	小野部純、鈴木誠、高橋一揮、釧明佳代子、山本優一	専任・兼任
		内部障害理学療法演習Ⅲ	14	高橋一揮、釧明佳代子、村上大介	専任・兼任
		総合理学療法学演習	14	黒後裕彦、星孝、小野部純、平山和哉、小野峰子、澁谷文恵、小泉智枝、仙波浩幸	専任・兼任
		義肢装具学	14	黒後裕彦、大黒一司、西嶋一智	専任・兼任
		義肢装具学実習	21	黒後裕彦、阿部玄治、大黒一司、古瀬亨、濱田美穂	専任・兼任
		物理療法学	14	星孝、長井真弓	専任
		物理療法学実習	21	長井真弓、釧明佳代子、平山和哉	専任
		日常生活活動演習Ⅰ	14	平山和哉、三木千栄、沼田純希、高木大輔、黒沢麻美	専任・兼任
		日常生活活動演習Ⅱ	14	平山和哉、三木千栄、沼田純希、釧明佳代子	専任
	地域理学療法学	地域理学療法学演習Ⅰ	28	三木千栄、高橋一揮	専任
		地域理学療法学演習Ⅱ	14	三木千栄、高橋一揮、小川友美、山中誠一郎、内藤幾愛、八島泰浩、今泉美和、和久井志保、小野めぐみ	専任・兼任
	臨床実習	臨床実習Ⅰセミナー	14	星孝、鈴木博人、2年 SA	専任
		臨床実習Ⅰ	42	黒後裕彦、専攻教員全員	専任
	臨床実習	臨床実習Ⅱセミナー	14	小林武、専攻教員全員(藤澤、内藤を除く)	専任
		臨床実習Ⅱ	147	黒後裕彦、専攻教員全員	専任
		地域理学療法実習	21	星孝、専攻教員全員	専任
		臨床実習Ⅲセミナー	14	高橋一揮、専攻教員全員(藤澤、内藤を除く)	専任
		臨床実習Ⅲ	231	黒後裕彦、専攻教員全員	専任

分野 (基礎・ 専門基礎・ 専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
専門	特別科目	基礎セミナーⅠ	14	長井真弓、村上賢一、鈴木博人、沼田純希、1年次 SA	専任
		基礎セミナーⅡ	14	沼田純希、村上賢一、鈴木博人、長井真弓、1年次 SA	専任
		基礎セミナーⅢ	14	星孝、鈴木博人、平山和哉	専任
		基礎セミナーⅣ	14	星孝、鈴木博人、平山和哉、2年 SA	専任
		夏季集中セミナー	14	鈴木誠、鈴木博人、高橋一揮、阿部玄治	専任
		地域理学療法セミナー	14	三木千栄、小野部純、高橋一揮、平山和哉、沼田純希、長井真弓、渡邊洋一	専任・兼任
		スポーツ理学療法セミナー	14	阿部玄治、平山和哉、永元英明	専任・兼任
		ウイメンズヘルス	7	小野部純、	専任
		医学英語	14	三木千栄、高橋一揮	専任
		福祉住環境論	14	高橋一揮、三木千栄、一條佑介	専任・兼任
		アダプテッド・スポーツ基礎実習	21	稲井勇仁、加藤秀太	兼任
		アダプテッド・スポーツ論	14	稲井勇仁、	兼任
		理学療法学特論	42	小林武、専攻教員全員	専任
		理学療法学特別演習Ⅰ	14	村上賢一、小野部純	専任
		理学療法学特別演習Ⅱ	14	黒後裕彦、専攻全教員(小林、藤澤、内藤を除く)、吉田裕人、山本和恵	専任・兼任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
臨床実習Ⅰ (見学・体験実習)	2年後期	理学療法概論	1年前期
		臨床医学総論	1年後期
		理学療法学基礎演習Ⅰ	1年前期
		理学療法学基礎演習Ⅱ	1年後期
		リハビリテーション医学	2年前期
		臨床実習Ⅰセミナー	2年後期
臨床実習Ⅱ (評価実習)	3年後期	理学療法評価技術演習Ⅰ	1年後期
		理学療法評価技術演習Ⅱ	2年前期
		運動動作分析演習	2年前期
		臨床動作分析演習	2年後期
		臨床実習Ⅱセミナー	3年前期
地域理学療法実習 (通所リハビリテーション)	3年後期	チーム医療福祉論	1年後期
		保健医療福祉概論	2年後期
		専門職連携論	3年前期
		専門職連携セミナー	3年後期
		地域理学療法学演習Ⅰ	3年前期
		地域理学療法学演習Ⅱ	3年後期
臨床実習Ⅲ (総合実習)	4年前期	運動療法学演習	2年前期
		運動器理学療法演習Ⅰ	2年後期
		運動器理学療法演習Ⅱ	3年前期
		運動器理学療法演習Ⅲ	3年後期
		小児理学療法演習Ⅰ	2年後期
		小児理学療法演習Ⅱ	3年前期
		神経理学療法演習Ⅰ	2年後期
		神経理学療法演習Ⅱ	3年前期
		神経理学療法演習Ⅲ	3年後期
		内部障害理学療法演習Ⅰ	2年後期
		内部障害理学療法演習Ⅱ	3年前期
		内部障害理学療法演習Ⅲ	3年後期
		総合理学療法学演習	3年後期
		義肢装具学	2年後期
		義肢装具学実習	3年前期
		物理療法学	2年後期
		物理療法学実習	3年前期
		日常生活活動演習Ⅰ	3年前期
		日常生活活動演習Ⅱ	3年後期
		臨床実習Ⅲセミナー	4年前期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制を記入してください。

自己点検・評価組織名	自己点検及び自己評価運営委員会
委員名（委員長）	加賀谷 豊
組織の開催頻度	1年に3回程度
組織の取り組み内容	大学各学部及び大学院研究科の点検及び評価の結果の統括調整
	大学及び大学院の点検及び評価の実施結果のとりまとめ
	学校教育法第109条に規定する認証評価機関が行う検証及び評価
	学校法人東北文化学園大学自己点検・自己評価委員会への報告
自己点検・評価結果の公表	H Pで公表（URL：https://www.tbgu.ac.jp/about/information/selfcheck）

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	教務委員会、教学マネジメント委員会、研修委員会
	委員構成等	教務委員会：教務部長、教務副部長、各学科専攻教員代表者 教学マネジメント委員会：学長、大学院研究科長、各学部長、学生部長、教務部長、事務局長、教務課長、教授 1 名、准教授 1 名 研修委員会：教務部長、基礎教育センター長、事務局長、庶務課長、教務課長、IR 室長、教授 4 名、准教授 1 名
	改善の仕組みの実際	シラバスに記載する事項については教務委員会で検討し毎年改善を図っており、それを元に教務課がシラバスの意義と作成方法、留意点等を科目担当者に示している。科目毎のシラバスは科目関係教員がチェックしたり、学科長・専攻長がチェックしたりしている。また、シラバスに示されている学習目標の達成度を判断するための方法等を教務委員会で検討したり、そのための研修会を研修委員会が開催したり、授業評価における学生意見をシラバスに反映するように教務課が促したりするなど、シラバス改善に努めている。

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

本学では、2017 年度に第三者評価として（公財）日本高等教育評価機構による大学認証評価を受審し、2018 年 3 月に同機構が定める大学評価基準に適合していると認定された。その結果を踏まえ各学科・専攻において必要に応じた対応が検討されるとともに、大学としては中期目標・中期計画「輝ける者を育むⅡ」をそして 2022 年度には「輝ける者を育むⅢ」を策定し、毎年度実施している自己点検・自己評価の結果も踏まえてさらなる改善に取り組んでいる。また、理学療法学専攻は（一社）リハビリテーション教育評価機構の認証評価を 2017 年度と 2022 年度に受審し、理学療法士教育に必要な施設基準およびカリキュラムを提供する優れた養成施設であると認定を受けた。その際の指摘事項等について理学療法学専攻教員全員で共有し、専攻内 FD 活動を通してさらなる改善に取り組んでいる。